



きずな

学校と家庭・地域が協力し、
共に子供の未来を育みましょう。

令和8年1月9日
校長 高田 幸代



目標に向かって前進できる年に



～午年のはじまりにあたって～

新しい年が明け、子どもたちの元気な声が学校に戻ってまいりました。保護者の皆さまにおかれましては、旧年中の温かなご支援に心より感謝申し上げます。

2026年は「午年」。古くから馬は、力強く大地を駆ける姿から「前進」や「飛躍」の象徴とされてきました。この一年が、子どもたち一人ひとりにとって自分の夢や目標に向かって、しなやかに、そして力強く駆け出す年になるようにと願っております。

夢に向かう道のりは、時に坂道であったり、分かれ道であったりします。子どもたちが日々の学びや経験の中で、自分の足で一步ずつ進む力を育ていけるよう、私たち教職員も保護者の皆さまと手を携えながら、その歩みを温かく支えたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



子は親の鏡

ドロシー・ロー・ノルト

この詩は「子どもが育つ魔法の言葉」という本に掲載されているとても有名な詩です。子どもが日々の暮らしの中で、まわりの大人のまなざしや言葉から多くを学んでいることを、やさしく教えてくれます。けれど大人でも毎日、子どもへの接し方を完璧にすることは、なかなか難しいものです。だから、また明日、そっと子供の心に寄り添う気持ちを持つ時に、この詩を思い出してみてください。

けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安げな気持ちでいると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言っていて育てると、
子どもは、はじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みあんな子になる
親が他人をうらやんでばかりいると、
子どもも人をうらやむようになる
叱りつけてばかりいると、
子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、
子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、
子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、
子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる



R7 学校評価（最終アンケート）結果

お忙しい中、アンケートへのご協力本当にありがとうございました。12月のアンケート結果を報告いたします。アンケート結果や皆様から頂いたご意見を今後の学校運営に活かしていきたいと思ひます。

	質 問 項 目	昨年12月	12月	評価
1	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。	86.0 %	89.9%	○
2	お子さんは、勉強や習い事やスポーツなどに取り組むときに、自分でめあて(目標)を持って取り組んでいる。	75.0 %	83.5%	○
3	友達や仲間を大切にしている。	98.9 %	97.5%	
4	お子さんは、家庭で自分から進んでお手伝いをしたり、相手(友だちや家族等)が喜ぶような行動をしたりすることを心掛けている。	80.8 %	89.7%	○
5	お子さんは、家庭で自分から進んであいさつ(おはよう・いただきます・ありがとうございます等)をしている。	82.9%	89.7%	○
6	お子さんは、家庭学習をする時、自分で計画を立てて取り組んでいる。(※3年生以上)	69.1%	76.9%	○
7	家庭では、起床や睡眠、ゲーム時間等 よりよい生活リズムに心がけている。	82.6%	83.9%	
8	家庭では、子どもの安全確保(登下校の安全・帰宅時間等)を心掛けている。	97.4%	99.5%	
9	学校は、家庭学習について評価や指導を行い、学びの習慣化を図っている。	96.1%	97.4%	
10	学校は、子どものことで相談・連絡したことについて適切に対応している。	97.8%	98.4%	

*数字(%)は、A:よくあてはまる B:ややあてはまる と回答した肯定的(A+B)評価割合です。

*評価は、昨年度比 +3%以上=○ -3%以下=△ で評価しています。

アンケート結果より

全体的に、昨年度よりも良いアンケート結果となりました。5つの項目で、昨年度よりも数値が大きく上昇している(○)ことが確認できます。特に、ご家庭での「お手伝い」や「あいさつ」など、家庭教育の基盤がしっかりとされており、符津小学校の児童の落ち着きの源がうかがえる結果となりました。

学校としては、子供たちが「目標」をもって取り組み、「友達を大切に」しながら、「学校に来るのが楽しい」と感じられるよう、さまざまな行事や学習を通して確かな力を育てていきたいと思ひます。今後とも、学校とご家庭が連携し、子供たちの成長を応援してまいります。何かお気づきの点がございましたら、どうぞ遠慮なくご相談ください。



ご意見ありがとうございます。(全体に関わることについて)

*低学年なので、タブレットを使った宿題などについてはテトルなどでお知らせしてもらえるとありがたい。

⇒今後、学習内容によって、丁寧に発信したいと思ひます。

*タブレットの持ち帰る頻度を多くして連絡帳としての活用があれば、急な休みの際に便利かと思う。

⇒子供たちの持ち帰りへの負担等を考えながら、発達段階や学習内容に応じて少しずつ持ち帰りを増やしていけるよう工夫していきます。

温かなコメントありがとうございます。(一部のみ抜粋)

○先日の符津っ子文化祭では、様々なクラスでそれぞれお店のアイディアを出したり計画、準備、当日の役割まで1人ひとりが楽しんで取り組む姿がとても素敵でした。また、挨拶や、身近な自然、残飯に関する事など、身近なテーマについて知識や理解を深めていることが、発表のコーナーからも感じられました。ありがとうございます。

○がんばり週間が一定間隔で入ることで、日々のドラダラしがちな勉強に刺激が入るようで本人にとってはよい様子です。学習時間表にまとめることで、やりきったあとは達成感がある模様です。

○子どもの相談をした時に、担任の先生含め、色んな先生が関わって声をかけてくださり、子どもも親の私も一緒に成長させてもらっていると感じています。ありがたい気持ちでいっぱいです。